

都留市セーフコミュニティ 交通安全対策委員会

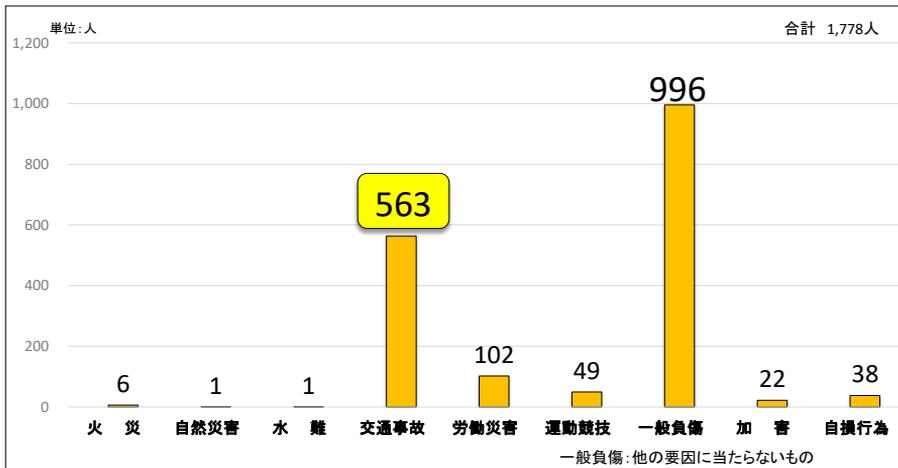


報告者 委員長 黒部栄一

対策委員会設置の背景①

図表1

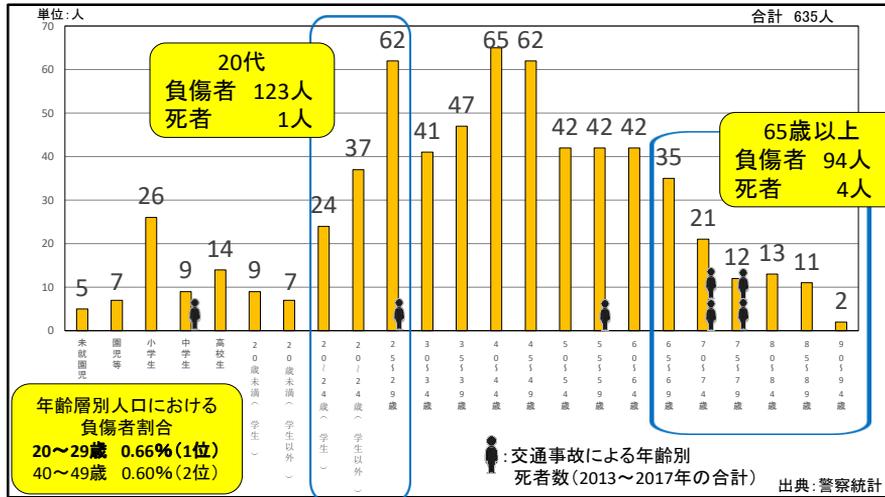
外傷・事故別救急搬送人員(2013~2017年の合計)



外傷による救急搬送では「一般負傷」の次に「交通事故」が多い。

対策委員会設置の背景②

図表2 交通事故負傷者と死者の年齢層別状況 全体(2013~2017年の合計)

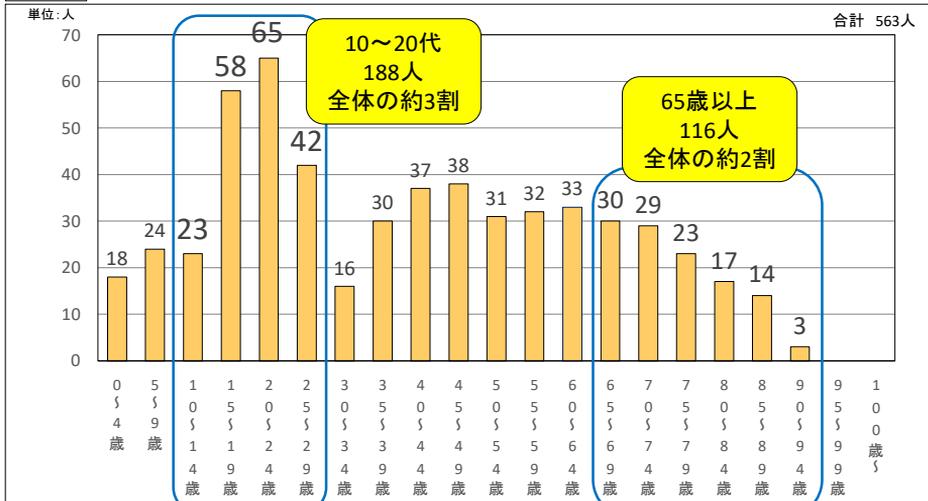


「20代」に交通事故負傷者が多く、「65歳以上」に交通事故死者が多い。

2

対策委員会設置の背景②

図表3 交通事故による救急搬送人員の年齢層別状況(2013~2017年の合計)



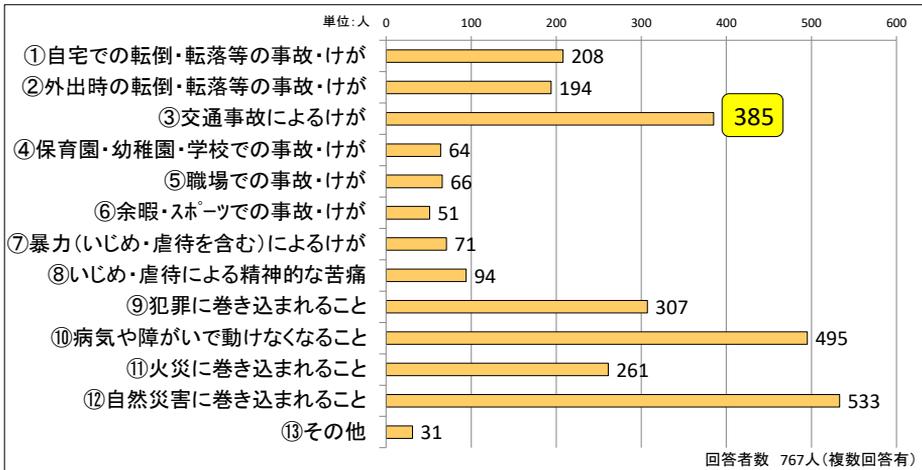
交通事故による救急搬送を年齢別にみると、「若者世代(10代・20代)」と「65歳以上」が多い。

3

対策委員会設置の背景③

図表4

都留市で生活する中で不安に感じている事柄



出典:安全・安心なまちづくりアンケート(2018年実施) 地域環境課

「交通事故」に不安を感じている市民が多い。
(13項目中3位と上位に入る)

4

対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織 民間団体等 (12)	大月交通安全協会	1
	都留市交通安全連合会	1
	都留市一般交通指導員連絡会	1
	各地域協働のまちづくり推進会 (谷村・東桂・禾生・三吉・盛里・開地・宝)	7
	富士急バス株式会社	1
	学生(都留文科大学)	1
行政機関 (8)	大月警察署 交通課	1
	都留市小中学校 教頭会	1
	都留市 地域環境課	4
	都留市 建設課	1
	都留市 財務課	1



5

対策委員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第1回 ～第23回	2018年10月 ～2021年2月	対策委員会合同・個別会議(2020年5、6月は書面会議)
	2020年11月25～26日	事前指導

実施日	委員会独自の活動内容
2019年10月7～8日	埼玉県秩父市事前審査視察
2019年11月13日	横断歩道での一時停止状況調査(委員会独自調査)
2020年1月10日	高齢者を対象としたアンケート調査(委員会独自調査)
2020年1月12日	若者世代を対象としたアンケート調査(委員会独自調査)
2020年6月10日	第2回 横断歩道での一時停止状況調査(委員会独自調査)
2020年6月	委員会取組活動番組の作成(シナリオ、出演、撮影、編集)
2020年7月、12月	委員会取組活動番組の周知(ケーブルテレビ、動画投稿サイト)
2020年12月	交通安全に関するアンケート調査(委員会独自調査)
2021年3月(予定)	事故多発地点MAP完成

6

委員会活動の様子

秩父市事前審査視察



高齢者アンケート調査



若者世代アンケート調査



横断歩道での一時停止調査



オリジナル啓発番組作成



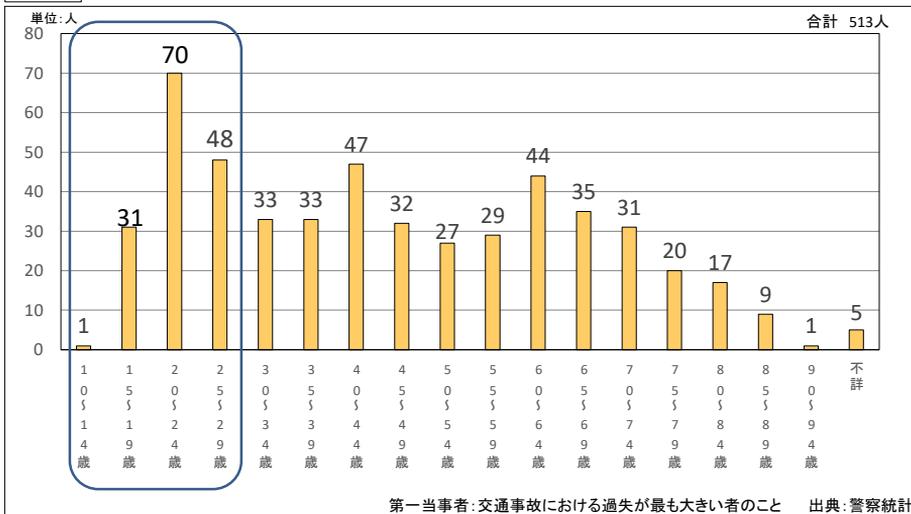
事故多発地点現地調査



7

データに基づく客観的問題点①

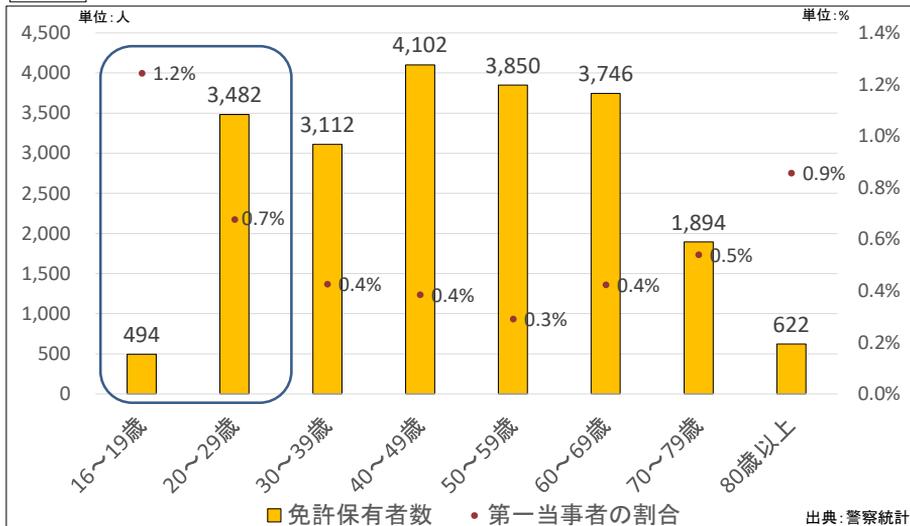
図表5 交通事故第一当事者の年齢層別状況(2013~2017年の合計)



若者世代(10代・20代)が第一当事者になる事故が多い。

データに基づく客観的問題点①

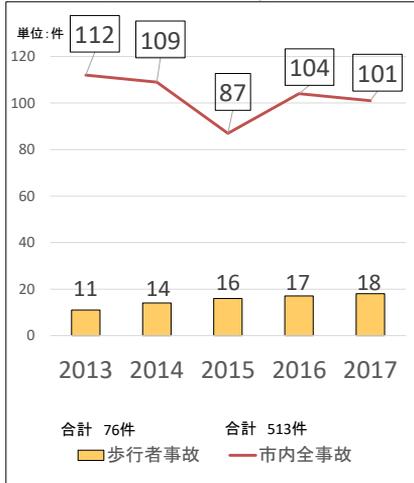
図表6 年齢層別運転免許証保有者に対する第一当事者の割合(2013~2017年の平均)



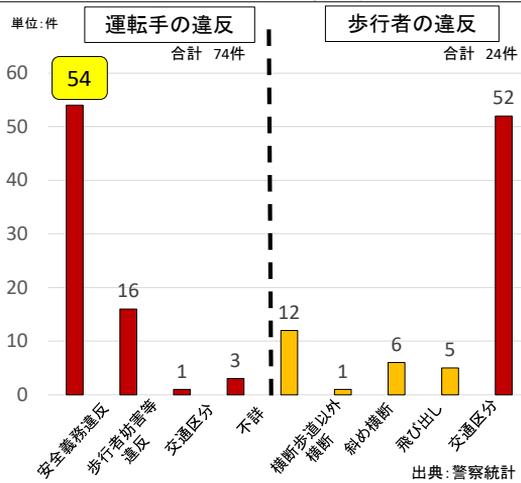
運転免許保有者のうち若者世代(10代・20代)が第一当事者になる割合が高い。

データに基づく客観的問題点②

図表7 事故件数と歩行者事故の推移
(2013～2017年)



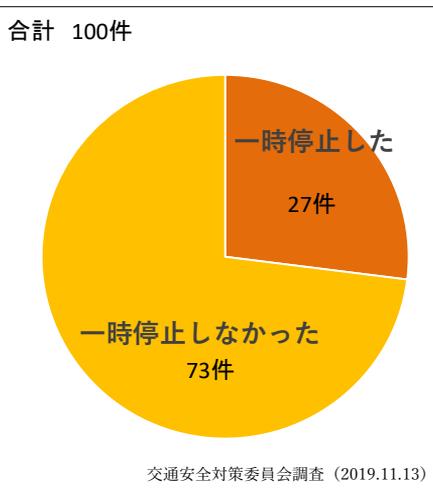
図表8 歩行者事故の法令違反別件数
(2013～2017年の合計)



歩行者事故は増加傾向で、運転手による安全義務違反が主な原因。

委員会による独自調査①-1

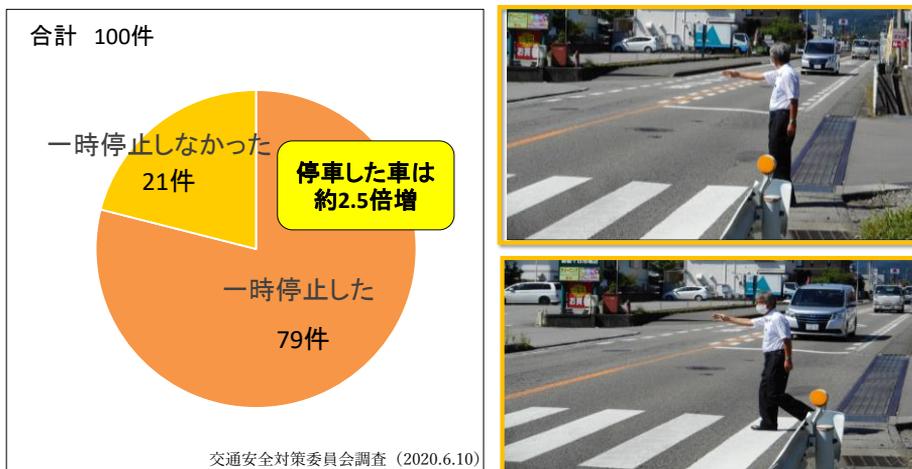
図表9 横断歩道一時停止状況調査(横断歩道付近に歩行者が合図をせずに立っている)



運転手の法令順守意識が低い。

委員会による独自調査①-2

図表10 横断歩道一時停止状況調査(歩行者が渡りたいという意思表示を示す)



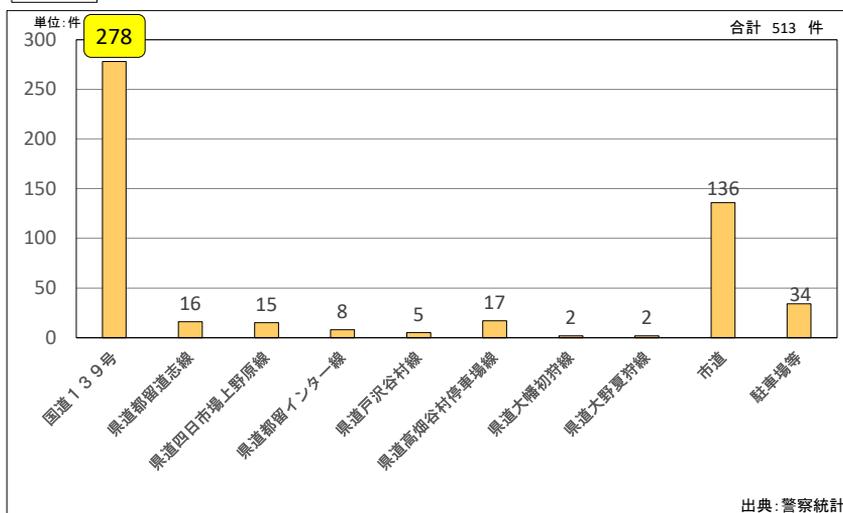
歩行者が「渡りたい」意思表示することで、運転手と相互理解が生じる。

12

データに基づく客観的問題点③

図表11

交通事故の路線別発生状況(2013～2017年)



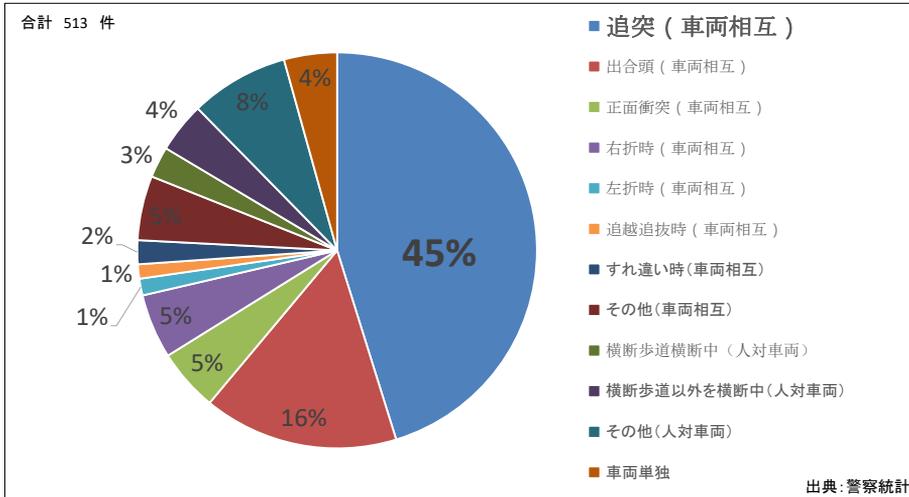
交通事故の多くは国道139号で起きている。

13

データに基づく客観的問題点③

図表12

交通事故の種類別件数(2013～2017年の合計)

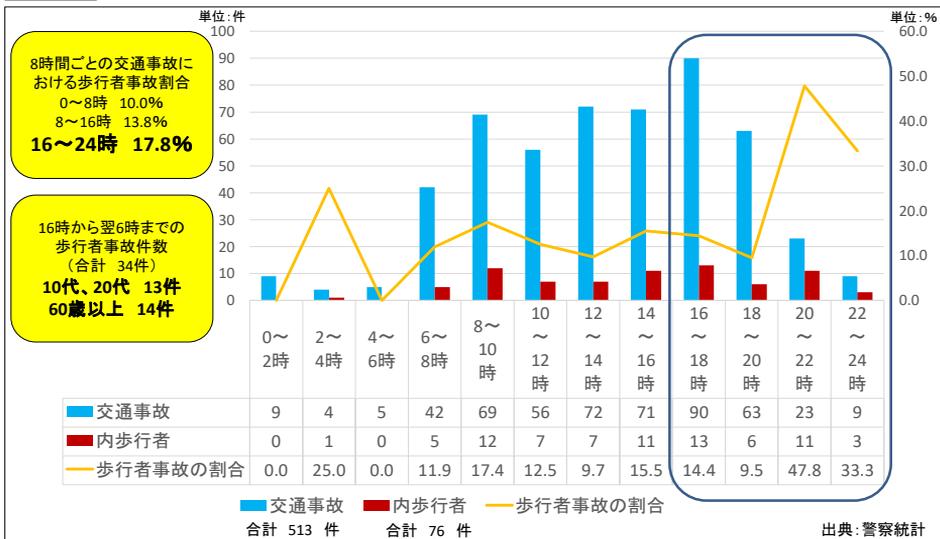


交通事故のうち追突事故が最も多く、全体の約半数を占める。

データに基づく客観的問題点④

図表13

時間別交通事故発生状況と歩行者事故の割合(2013～2017年の合計)



夜間(16～24時)における歩行者事故が多い。

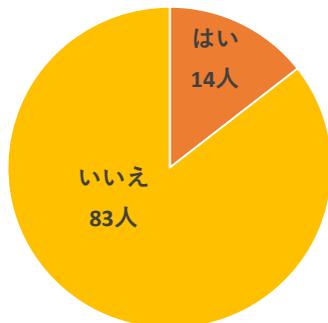
委員会による独自調査②-1

図表14

高齢者意識調査

Q.歩行時に反射材を身に着けているか？

回答数 97人



交通安全対策委員会調査
鶴寿大学アンケート(2020.1.10)



16

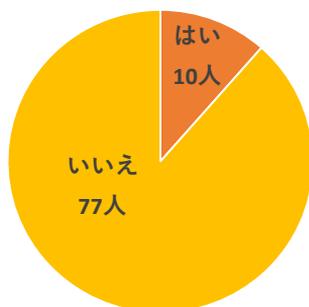
委員会による独自調査②-2

図表15

若者層意識調査

Q.歩行時に反射材を身に着けているか？

合計 87人



交通安全対策委員会調査
成人式アンケート(2020.1.12)



歩行者側の安全対策も不十分である

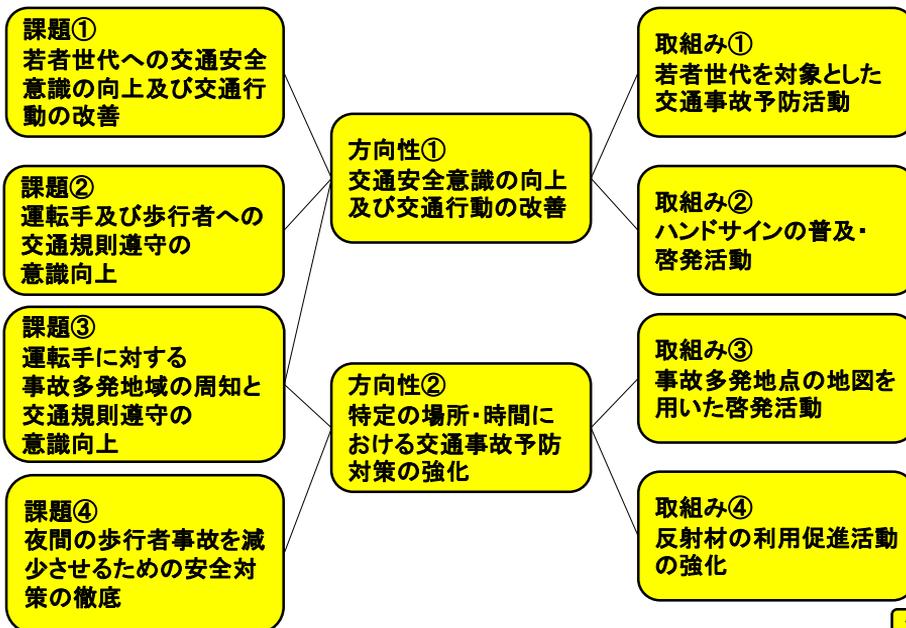
17

重点課題

客観的問題点	課題
・若者世代が第一当事者になる事故が多い。 (P8～P9)	若者世代への交通安全意識の向上及び交通行動の改善
・歩行者事故が年々増加しており、その主な原因は運転手による安全運転義務違反である。 (P10～P12)	運転手及び歩行者への交通規則遵守の意識向上
・事故の半数以上が国道139号で起こっている(P13) ・事故種別でみると追突事故が最も多い(P14)	運転手に対する事故多発地域の周知と交通規則遵守の意識向上
・歩行者事故は夜間に多いが、歩行者の安全対策も不十分である。(P15～P17)	夜間の歩行者事故を減少させるための安全対策の徹底

18

課題に対する取組み



19

課題①②に対するレベル別対策

対 策			
方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
環境整備	・県道や国道の点検、道路標識等の設置	・カーブミラー等の設置による道路環境の改善	・道路環境に関する情報提供
規則・罰則	・道路交通法による規制、取り締まり ・道交法改正に伴う周知		
教育・啓発	・全国交通安全運動（春・秋） ・各種体験等による啓発イベント ・高齢者宅訪問事業	・街頭及び広報での啓発 ・交通安全講話	・街頭啓発
<p style="text-align: right;">対策委員会の取組み <small>支援・新規</small></p> <p>取組み① 若者世代を対象とした 交通事故予防活動</p> <p>取組み② ハンドサインの普及・啓発活動</p>			

20

課題③④に対するレベル別対策

対 策			
方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
環境整備	・県道や国道の点検、道路標識等の設置	・街路灯等の設置による道路環境の改善	・道路環境に関する情報提供
規則・罰則	・道路交通法による規制、取り締まり ・ライト無灯火、歩行者妨害の取り締まり		
教育・啓発	・全国交通安全運動（春・秋） ・事故地点のマッピングによる啓発資料の作成 ・反射材の利用促進	・早めのライト点灯の啓発 ・反射材の配布及び利用促進	・早めのライト点灯の啓発 ・反射材の配布及び利用促進
<p style="text-align: right;">対策委員会の取組み <small>支援・新規</small></p> <p>取組み③ 事故多発地点の地図を用いた啓発活動</p> <p>取組み④ 反射材の利用促進活動の強化</p>			

21

取組み①

課題	若者世代への交通安全意識の向上及び交通行動の改善		
取組み	若者世代を対象とした交通事故予防活動		
対象	若者世代(10代・20代)		
実施者	対策委員会、市、学校(大学・高校)、警察、交通安全団体		
取組み内容	若者世代の事故が多いことを知ってもらい、違反をしないよう啓発する。 【どうやって】 ・若者世代の事故が多いこと、違反をしないよう伝えるポスター、ホームページを作成し、高校、大学、教習所、コンビニ、居酒屋、駅など、若者が多く集まる場所に掲示する。 ・交通安全団体が配布しているチラシ等に若年層の事故が多いことを伝える文章を付け加え、啓発する。		
成果指標	【意識】(短期) 若者世代が交通事故の第一当事者となっている割合が多いことについて若者世代への周知	【測定】 啓発チラシの配布数	
	【態度・行動】(中期) 運転時に交通事故予防行動を実施している若者世代の増加	【測定】 アンケートによる意識調査	
	【状況】(長期) 若者世代が第一当事者となる交通事故の減少	【測定】 警察統計	

22

取組み①

取組み	若者世代を対象とした交通事故予防活動			
対策委員会の関わり方	「若者世代が第一当事者になる事故が多い」ということに着目した周知・啓発活動がなかったため、既存のイベント・活動時にそのことについて追加し、周知・啓発活動を実施する。			
これまでの取組み内容	周知・啓発について、より効果的な手段・方法を協議中。			
成果指標	【意識】(短期) 若者世代が交通事故の第一当事者となっている割合が多いことについて若者世代への周知	【測定】 ・啓発チラシの配布数	2018年 (取組み開始)	2020年
	【態度・行動】(中期) 運転時に交通事故予防行動を実施している若者世代の増加	【測定】 ・アンケートによる意識調査	—	—
	【状況】(長期) 若者世代が第一当事者となる交通事故の減少	【測定】 ・警察統計	27件 (2017年)	—

23

取組み②

課題	運転手及び歩行者への交通規則遵守の意識向上		
取組み	横断歩道での意思表示の為のハンドサイン啓発活動		
対象	運転手、歩行者(若者世代・高齢者)、事業所等		
実施者	対策委員会、市、警察、交通安全団体、事業者		
取組み内容	横断歩道で「渡りたい」という意思表示をするためのハンドサインを広めると同時に、運転手へ横断歩道での一時停止の徹底について啓発する。 【どうやって】 ・市民から「ハンドサイン運動」の名称を募集し、併せて啓発する。 ・学校、教習所、ガソリンスタンド等でチラシや掲示物を用いて啓発する。 ・他の対策委員会と協力して周知・啓発する。		
成果指標	【意識】(短期) ハンドサイン運動についての周知	【測定】 啓発チラシの配布数	
	【態度・行動】(中期) ハンドサイン運動を実施している人の増加	【測定】 アンケートによる意識調査	
	【状況】(長期) 市内の歩行者事故件数の減少	【測定】 警察統計	

24

取組み②

取組み	横断歩道での意思表示の為のハンドサイン啓発活動			
対策委員会の関わり方	対策委員会オリジナルのハンドサインを作成し、既存のイベント・活動時にそのことについて追加し、周知・啓発活動を実施する。			
これまでの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年11月 横断歩道一時停止状況調査(横断歩道付近に歩行者が合図をせずに立っている) ・2020年6月 横断歩道一時停止状況調査(歩行者が渡りたいという意思表示を示す) ・2020年7月 対策委員会オリジナルのハンドサインを作成し、啓発番組を作成し、ケーブルテレビ・動画投稿サイトにて放送 ・2020年8月号広報にてハンドサインの名称募集⇒「サンクスハンド」に決定 ・2020年12月 ハンドサインの名称が「サンクスハンド」に決定したことを周知するため、啓発番組を作成し、ケーブルテレビ・動画投稿サイトにて放送 ・2020年12月 谷一小前横断歩道にて警察と共同で啓発活動を実施。 			
成果指標	【意識】(短期) ハンドサイン運動についての周知	【測定】 啓発チラシの配布数	2018年 (取組み開始)	2020年
			—	110枚
	【態度・行動】(中期) ハンドサイン運動を実施している人の増加	【測定】 アンケートによる意識調査	—	—
	【状況】(長期) 市内の歩行者事故件数の減少	【測定】 警察統計	18件 (2017年)	—

25

取組み②

具体的な活動①	2020年7月ハンドサイン運動普及のための啓発番組作成 出演者:交通安全対策委員会 委員 都留文科大学 学生 都留興譲館高等学校 生徒 東桂小学校 児童	シナリオ・出演・撮影・編集の全てを委員会が実施
手段・方法	都留市ケーブルテレビでの放送 動画投稿サイトへの掲載	動画投稿サイトへのリンクQRコード 
具体的な活動②	2020年8月号 ハンドサイン運動の名称を市民から募集 ⇒「サンクスハンド」に決定 2020年12月 「サンクスハンド」普及のための啓発番組作成	
具体的な活動③	2020年12月 谷一小前横断歩道にて、警察と共同で啓発活動を実施	



ハンドサインの実践の様子



ハンドサインの周知



ハンドサインの啓発活動

26

取組み③

課題	運転手に対する事故多発地域の周知と交通規則遵守の意識向上	
取組み	事故多発地点の地図を用いた啓発活動	
対象	全年齢層	
実施者	対策委員会、市、警察、交通安全団体	
取組み内容	交通事故が多い場所を知ってもらうと同時に、交通規則を守るよう啓発する。 【どうやって】 ・事故多発地点の地図を作成し、CATV・広報・HP・SNS等を用いて知らせる。 ・「事故多発注意」などの看板を設置して啓発する。 ・他の対策委員会と協力して周知・啓発する。	
成果指標	【意識】(短期) 事故多発地点についての周知	【測定】 事故多発地点地図の配布数
	【態度・行動】(中期) 事故多発地点にて交通事故予防行動を実施している人の増加	【測定】 アンケートによる意識調査
	【状況】(長期) 事故多発地域(国道139号)での交通事故の減少	【測定】 警察統計

27

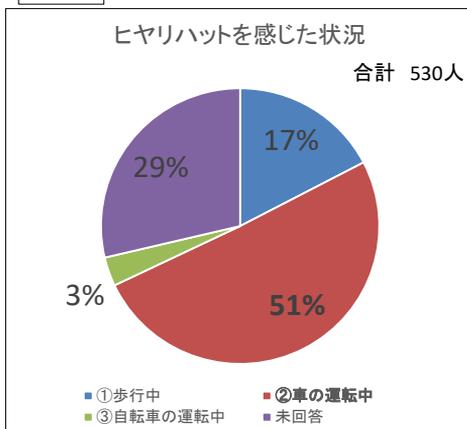
取組み③

取組み	事故多発地点の地図を用いた啓発活動			
対策委員会の関わり方	交通事故が多い場所を知ってもらうために事故多発地点地図を作成し、既存のイベント・活動時にそのことについて追加し、周知・啓発活動を実施する。			
これまでの取組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年12月 交通安全に関する独自アンケートを実施し、ヒヤリハットに関するデータ収集。 ・事故発生データ及びヒヤリハットに関するデータから市内地区別の事故多発地点地図を作成(2021年3月完成予定)。市広報に掲載して周知する。 ・この活動に関心を持っていただいた地元企業の協賛により、地図を冊子として発行していく協議中。(2021年8月実施予定) 			
成果指標	【意識】(短期) 事故多発地点についての周知	【測定】 事故多発地点地図の配布数	2018年 (取組み開始)	2020年
	【態度・行動】(中期) 事故多発地点にて交通事故予防行動を実施している人の増加	【測定】 アンケートによる意識調査	—	—
	【状況】(長期) 事故多発地域(国道139号)での交通事故の減少	【測定】 警察統計	51件 (2017年)	—

28

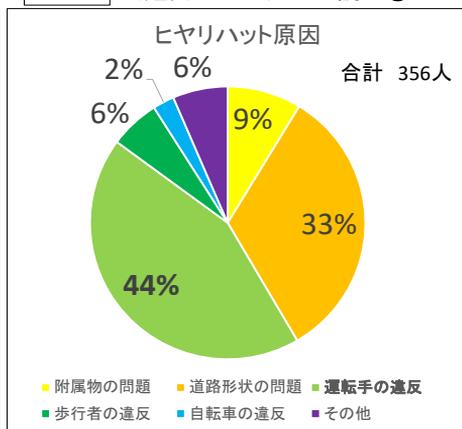
委員会による独自調査③-1

図表16 交通安全ヒヤリハット調査①



交通安全対策委員会調査
交通安全に関するアンケート(2020.12)

図表17 交通安全ヒヤリハット調査②



交通安全対策委員会調査
交通安全に関するアンケート(2020.12)

車の運転中にヒヤリハットを感じやすく、
運転手の違反による原因が多い

29

取組み④

課題	夜間の歩行者事故を減少させるための安全対策の徹底		
取組み	反射材の利用促進活動の強化		
対象	歩行者・運転手		
実施者	対策委員会、市、警察、交通安全団体		
取組み内容	夜間の歩行者事故予防の啓発をする。 【どうやって】 ・イベント等で反射材を配布し、その場で付けてもらう。 ・継続して使用してもらえる反射材を検討、普及する。 ・夜間の歩行者事故が多いことを啓発する。 ・他の対策委員会と協力して周知・啓発する。		
成果指標	【意識】(短期) 夜間の事故が多いことを周知	【測定】 反射材の配布数	
	【態度・行動】(中期) 夜間に反射材を装着している人の増加	【測定】 ・アンケートによる意識調査	
	【状況】(長期) 夜間(16時～24時)での交通事故件数の減少	【測定】 ・警察統計	

30

取組み④

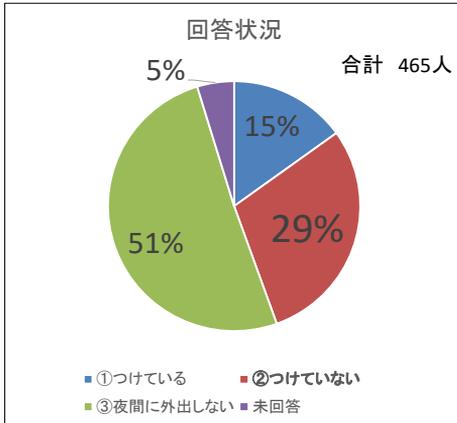
取組み	反射材の利用促進活動の強化			
対策委員会の関わり方	反射材の普及・装着に関して、従来の手段だけでなく新規の手段を検討し、既存のイベント・活動時にそのことについて追加し、周知・啓発活動を実施する。			
これまでの取組み内容	・2020年1月 鶴寿大学、成人式にて反射材に関する独自アンケートを実施し、反射材に関するデータ収集。 ・2020年12月 交通安全に関する独自アンケートを実施し、反射材に関するデータ収集。 ・アンケート結果を分析し、より効果的な手段・方法の検討中。			
成果指標	【意識】(短期) 夜間の事故が多いことを周知	【測定】 反射材の配布数	2018年 (取組み開始)	2020年
			1580個	320個
	【態度・行動】(中期) 夜間に反射材を装着している人の増加	【測定】 アンケートによる意識調査	—	—
	【状況】(長期) 夜間(16時～24時)での交通事故件数の減少	【測定】 ・警察統計	31件 (2017年)	—

31

委員会による独自調査③-2

図表18

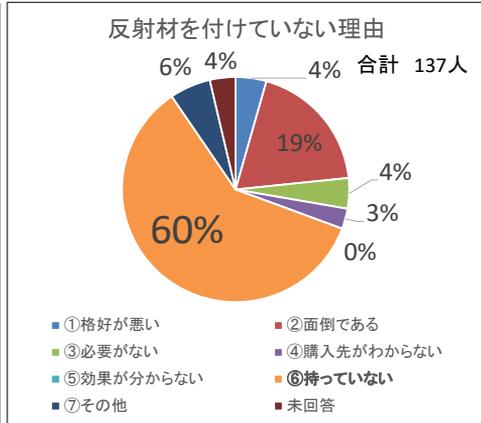
反射材調査①



交通安全対策委員会調査
交通安全に関するアンケート(2020.12)

図表19

反射材調査②

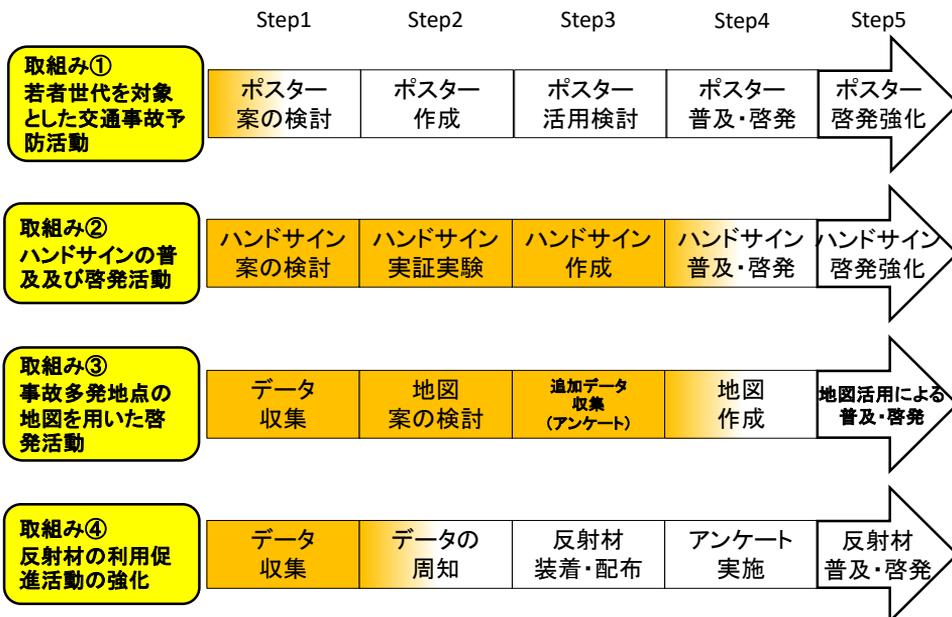


交通安全対策委員会調査
交通安全に関するアンケート(2020.12)

夜間の外出時に反射材を付けていない理由として、「持っていない」が主な理由

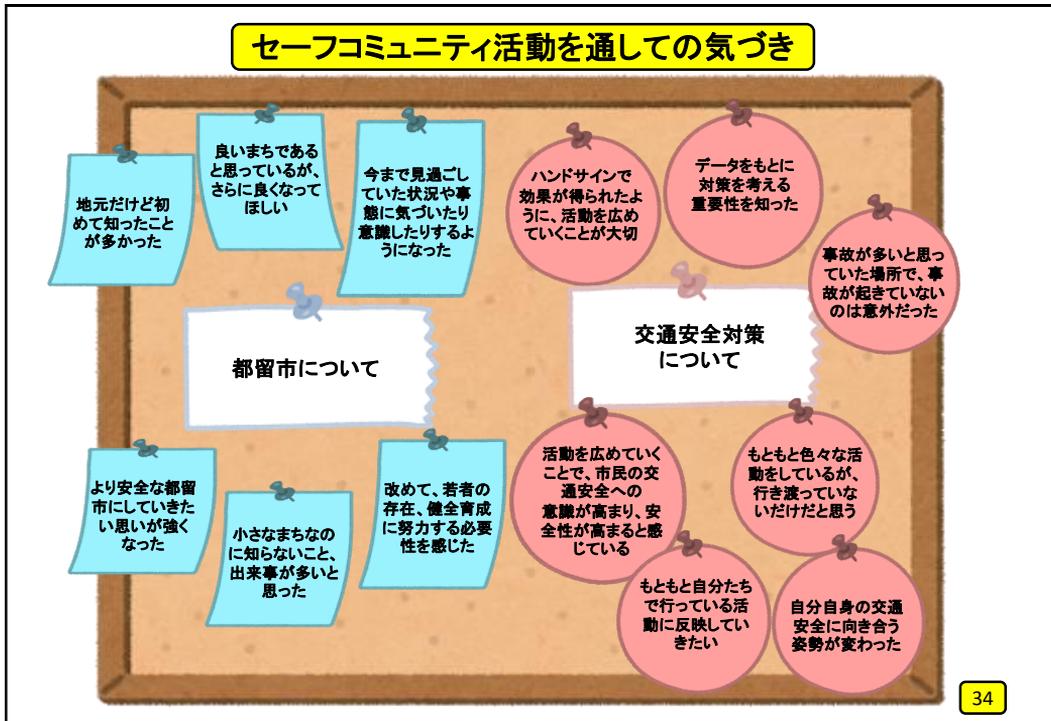
32

取組みごとの進捗状況

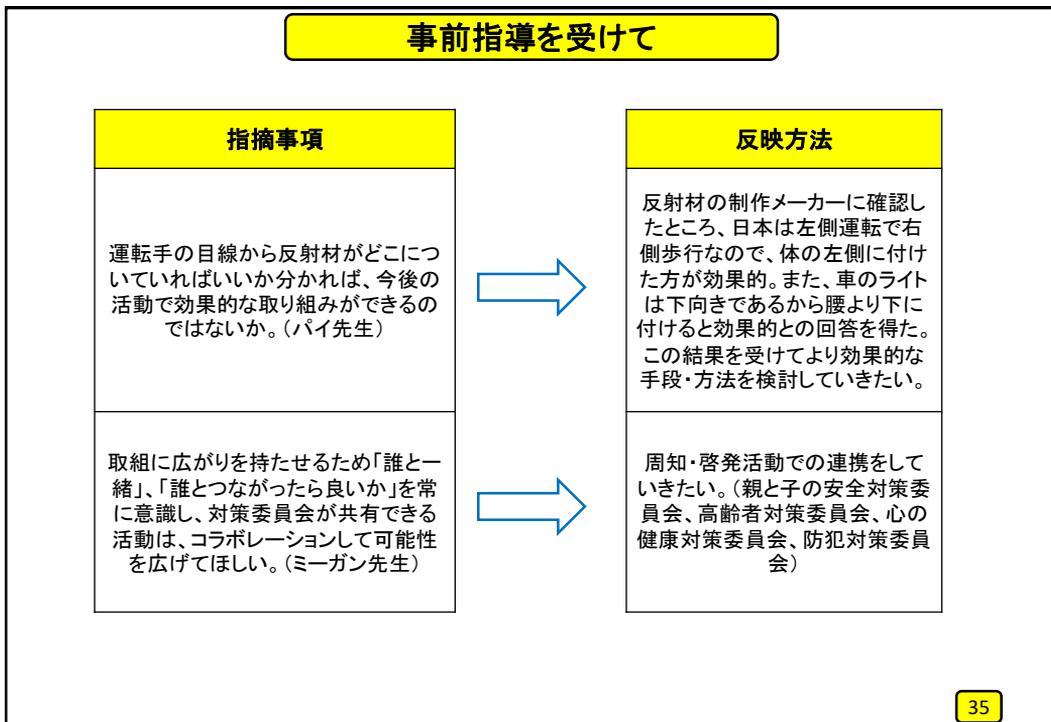


33

セーフコミュニティ活動を通しての気づき



事前指導を受けて



事前指導後の進捗

取組み②	2020年12月 谷一小前横断歩道にて警察と共同で啓発活動を実施
取組み③ 取組み④	2020年12月 交通安全(ヒヤリハット、反射材)に関する委員会独自アンケートを実施。
取組み③	事故発生データ、ヒヤリハット(委員会独自アンケート結果)データから事故多発地点地図を作成。2021年3月完成予定。
取組み③	完成した事故多発地点地図を市広報に各地区の概要版を掲載して周知する予定。 市ホームページに事故多発地点地図を掲載する予定。
取組み③	この活動に関心を持っていただいた地元企業の協賛により、地図を冊子として発行していく協議中。(2021年8月実施予定)

ハンドサインの啓発活動



事故多発地点 現地調査①



事故多発地点 現地調査②



36



ご清聴ありがとうございました

